

令和2年度 第2回 学校運営協議会 議事録

令和2年12月17日(木) 15:00~16:30

於：大阪府立守口東高等学校 校長室

書記：笹山 秋生

【出席者】

<委員>

寺本 毅 (守口市立八雲中学校 校長) 【会長】 (紙面審議)

竹内 章 (大阪成蹊大学 スポーツ&カルチャーセンター長) 【副会長】

栗本 太郎 (白鳩チルドレンセンター八雲中 園長)

小倉 庸敬 (榊淀川製作所 代表取締役)

<校長> 富永 誠

<事務局>

辻 真人 (教頭)

山地 千里 (事務長)

笹山 秋生 (首席)

【議事】

1 開会の挨拶

2 協議

① 「脳力開花プロジェクト」について…校長より説明

・学習環境の改善

全ての普通教室にプロジェクタの設置

タブレット端末を使用した授業の導入→次年度導入予定

会議室のエアコン設置

・わかりやすい授業、学びたい授業

相互授業見学、授業力向上研修の実施

主体的で対話的な深い学びの実践、ICTの積極活用

少人数、習熟度別授業の展開

・様々な希望に対する進路体制

大学進学率の向上

就職内定率100%

各種検定の推進

② スマホ・携帯の使用について…首席より説明

・使用を禁止する指導ではなく、正しい使い方を指導した上で使用する方向の指導を考える。

・11月下旬より試行期間として、昼休みと放課後の携帯電話・スマートフォンの使用を認める。

・試行期間の様子を鑑みて、3学期より昼休みと放課後および朝の授業前の使用を認める。

・歩きスマホなどのマナーについて指導は必要である。

<協議内容>

○脳力開花プロジェクトについて

- ・校内のICT化を進めていく中で、どのような形でICT化を生徒に落としこめていくのか。
→生徒の方が得意なところもあるので、生徒と相談しながら最低限のことはできるようになってほしい。
- ・家庭環境の違いがある中、どのように対応していくのか。
→家庭の通信状況の調査、環境がないところには機器の貸し出しで対応
- ・コロナ禍の中で授業のデジタル化が進んでいると思うが、コロナ禍が明けても授業のデジタル化は進んでいくのか。
→以前からICTを活用した授業は推奨されており、ハード面が追いついてきた感じがする。
今後は、すべてではないが授業は変わっていくと思う。
- ・授業見学は大変興味深い。見学することで課題などが見えてくるのか。
→授業を見て、その中で研修等を行って授業内容を話し合うことで、先生方の授業力が上がってくれば良いと思う。
- ・ICT機器は、一つのツールであり、それをとおしてどのように授業をするのかを考えることが重要。そのうえで、授業の相互見学は素晴らしい。
- ・生徒同士で話し合いながら、高めあいながら、学習の楽しさを理解することは素晴らしい。
- ・職人の世界も技術を盗む時代からYouTubeで学習するようになっている。意欲のある人には、吸収する情報がたくさんある。それらの活用は、若い世代の方がよく知っている。
- ・デジタルに頼ると、人とコミュニケーションする習慣がなくなる。グループワークなどで協調性や思いやりも伸ばしてほしい。

○スマホ・携帯の使用について

- ・歩きスマホが気になる。たまに校外でも見かける。厳罰にするくらいの方がいいのではないか。
- ・自転車での歩きスマホは非常に危険。
- ・地域でできていないことでも、安全上の指導は学校で厳しい目で指導してほしい。
→できるところから始めたい。
- ・生徒、教員の理解の中で使用に至ったことは素晴らしい。

○入試状況について

- ・不登校の生徒などがたくさん通信制へ行っているようだが、影響があるのでないか。
- ・定員割れの校内での分析はどのようになっているのか。
→子供の数に比較して、学校が多くなっている。いろいろな要因が重なっている。
- ・「守口東高校に行けばこれが出来る」ような、特色を示すことも大切。

4 事務連絡

(省略)